



## 編集後記

- 2019年4月1日より、広島文教女子大学は、共学となり、大学名も広島文教大学に変更いたします。それに伴い、本学会も「広島文教大学 人間福祉学会」と名称変更いたします。
- 今回が3回目の電子ジャーナルでの発行となります。皆様には広島文教大学人間福祉学会のホームページより閲覧いただいていることと存じます。ホームページ及び本紀要の存在について、是非多くの方々にお報せいただきますようお願いいたします。
- 本誌を発行できるのは、偏に多岐にわたる学会の活動をお手伝いいただく会員の皆様と投稿者の皆様のおかげです。今回もご投稿をいただき、ありがとうございました。相変わらず年度末ギリギリでの発行となっておりますが、変わらず動きの遅い編集委員にお付き合いいただいた投稿者の皆様、ご迷惑をおかけし申し訳ありません。今回は掲載の形式を変更した論文等が数編あります。読みづらくなっているとすれば編集の責任ですのでご容赦ください。論文だけではなく、これからはできる限り様々な表現方法に対応していきたいと考えております。「伝えたいことがある」、「皆に聞いてほしい、聞かきたいことがある」という方、ぜひ編集委員にご相談ください。また、内容にご意見等ありましたら遠慮なくお寄せください。
- 人間福祉学会（本学会場）では、福祉現場に就職して4～7年目の卒業生3名にご登壇いただき、現在従事している仕事の内容や、職場における「繋がり方」についてお話をいただきました。職場内だけではなく、職場外での繋がりを作り、自分の楽しみや息抜きのある場をつくることの大切さや、上司や後輩と適度な距離を保ちつつも、互いの思いを表現しながら協力しあえる環境づくりの大切さなど、苦勞ながらも前向きに取り組む卒業生の様子をうかがい知ることができました。また、大学で共に学んだ親友との繋がり、そして母校という居場所がかけがえのないものとなっているという話もあり、私たちも大いに励まされました。学会のイベントに参加していただいた皆様には心より感謝いたします。
- 本学会場では、塚村英幸先生に総評をお願いしました。コメントを通し、先生の変わらぬ優しさやあたたかさに触れ、私たちはさらに励まされることになりました。塚村先生には心より感謝いたします。ありがとうございました。
- 人間福祉学会島根ブロックは、今年度で4回目です。今回は、島根在住の卒業生の企画・運営という、記念すべき会でした。虻江紀雄先生のお話を通し、福祉の仕事の奥深さに再び目を開かされた方も多かったのではないのでしょうか。意見及び情報交換会では、在学生や卒業間もない皆さんが先輩方の言葉に励まされ、表情も晴れやかになる様子が多く見受けられました。島根大会の企画・運営にご尽力いただいた皆さん、参加してくださった皆様に心より感謝いたします。次回の開催も合わせ、これからも本紀要を通じて島根ブロックの活動の様子についてもご報告できればと思っています。

広島文教女子大学 人間福祉学会

『人間福祉研究』第17号編集委員（溝淵 淳 太原 牧絵）